

教 育 広 報

いわみざわ市の教育

……特集……
特別支援教育について



「決意を新たに、今年は 918 名が大人の仲間入り」

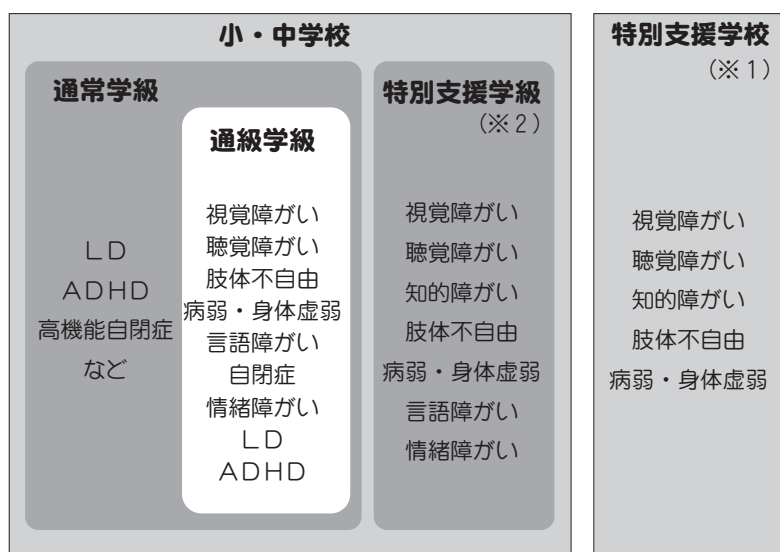
1 月 13 日、平成 20 年岩見沢市成人式が開催されました。第一部の式典では、新成人代表による決意表明があり、大人としての自覚と夢に向かう決意の言葉が述べられ、第二部に入ると、新成人たちはそれぞれに友人との再会や交流を楽しんでいました。

（イベントホール赤れんが）

特 別 支 援 教 育

～正しい理解と適切な支援を～

特別支援教育の対象範囲（義務教育段階）



(※1) 従来の盲・ろう・養護学校

(※2) 従来の特殊学級

特別支援教育とは

特別支援教育とは、障がいのある幼児・児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

これまでの特殊教育の対象としてきた児童生徒に加えて、通常の学級に在籍する発達障がいをもつ児童生徒も支援の対象となっています。

発達障がいとは

発達障がいとは、LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）、高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）などの脳機能の障がいであって、その症状が通常低年齢で発現するものです。



LD（学習障がい：Learning Disabilities）

LDとは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す様々な障がいを指すものです。

主な特徴

- ▶「聞く」ことが苦手
- ▶「話す」ことが苦手
- ▶「読む」ことが苦手
- ▶「書く」ことが苦手
- ▶「計算する」ことが苦手
- ▶「推論する」ことが苦手

例えば、このような支援を

【読むことに関して】

- ▶読む箇所を指でなぞる。定規を活用する。
- ▶蛍光ペンやマスキングシートを利用する。
- ▶音読の練習の場を設定する。 など

【書くことに関して】

- ▶ノートの罫線やマスの使い方を工夫する。
- ▶単語の穴埋めなど出題方法を工夫する。
- ▶文字カードを活用する。 など

【計算することに関して】

- ▶具体物やタイル等を活用する。
- ▶電卓やパソコン等を活用する。
- ▶学習プリントの内容を工夫する。 など

ADHD（注意欠陥／多動性障がい：Attention Deficit/Hyperactivity Disorder）

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力や衝動性、多動性を特徴とする行動の障がい、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものです。

主な特徴

- ▶不注意
～注意を持続させることが苦手
- ▶衝動性
～衝動を抑えることが苦手
- ▶多動性
～活動が過剰で落ち着きがない

例えば、このような支援を

- ▶自信回復や自尊心（自己有能感）の確立を図る指導の工夫をする。
- ▶叱責より、できたことを褒める対応をする。
- ▶課題となる行動に対しては、その子どもと解決の約束を決め、自力ですることと支援が必要な部分を明確にする。
- ▶課題となる行動の出現の傾向・共通性・メッセージを把握する。
- ▶刺激の少ない学習環境（座席の位置等）を設定する。
- ▶グループ活動でのメンバー構成に配慮する。 など

高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）

高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障がいである自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものです。（※アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものです。）

主な特徴

- ▶人への対応や関わりを持つことが苦手
- ▶コミュニケーションをとることが苦手
- ▶興味・関心の幅が狭く特定のものにこだわる

例えば、このような支援を

- ▶図形や文字による理解能力が優れていることを活用する。
- ▶学習環境をわかりやすく整理し提示するなどの構造化をする。（見通しがもてる工夫や刺激の少ないコーナーや部屋の活用等）
- ▶問題行動への対応では、問題行動は表現方法のひとつとして理解し、それを別の方法で表現することを教える。 など

小・中学校

校内委員会

校内体制で支援するための話し合いをします。

- ▶児童生徒の実態把握
- ▶指導内容・方法の検討
- ▶指導体制の検討

特別支援教育コーディネーター

特別支援教育推進の調整をします。

保護者との連携

まわりの子どもへの理解・啓発

特別支援学校や医療機関との連携

指導の専門性向上のための研修

連携・協力・アドバイス

専門家チーム

医師や心理学・障がい児教育の専門家、特別支援学校教員、特別支援学級担任、教育委員会職員等で組織しています。

学校からの要望により、通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒に対する学校での望ましい教育的対応について専門的意見を示します。

巡回相談

専門的な知識・経験を持つ巡回相談員が、学校からの要望により、通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒に対する指導内容・方法について、教員や保護者にアドバイスします。

岩見沢市の特別支援教育

岩見沢市では、小・中学校の通常の学級に在籍する発達障がいをもつ児童生徒への支援について、学校はもと

より、専門家チームの設置、巡回相談の実施などの体制整備を図っています。

（問合先） 指導室 ☎23局 4111

みんなの



学校づくり

10月4日(木)、本校4～6年生児童11名と教職員で、西陸橋・上幌向駅・スカイロードの清掃を行いました。ほつぎで掃いて、ごみを集める。ぞつきで壁の汚れを落とす。学校とは違う、頑固な汚れの箇所もありますが、どの子も一生懸命働きました。小一時間の活動ですが、地域の方たちとともに汗を流し、きれいになった箇所を満足そうに眺める子どもたちの顔は、輝いていました。



気持ちを含めて、地域の方たちと一緒に清掃をするのです。



2006年度より、本校では「第二小ありがとう大作戦」という、児童の清掃活動を行っています。

普段何気なく通っている通学路。よく見てみると、汚れがたまっているところも。この日は、日ごろの「ありがとう」の

“ありがとう”の
気持ちを含めて

第二小学校

その後は、2年生と5年生のクラスで交流を行いました。2年生はお母さん方に来てもらい日本の料理（肉じゃが）の紹介ということで一緒に料理を作り試食しました。ちよつと手つきは危なかったけど上手にすることができました。5年生は日本の文化の紹介で、和楽器や着物、和菓子などを紹介しました。驚いたことに説明は英語で行いました。最後は記念写真を撮ったりあそんだりと楽しいひと時を過ごしました。物おじすることなく、積極的にコミュニケーションをとっていた姿が印象的でした。来年も多くの学年が交流し、日本と外国の文化の違いを理解したり、コミュニケーション能力の向上に役立てればいいと思います。



7月18日、JICA研修員の方々と交流会をひらきました。今年はセルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、アルバニア、モルドバ、モンテネグロ、マケドニアから10名の方々に来ていただき交流を深めました。始めに全校で歓迎の集会を開き、

JICA研修員との
交流学習

北真小学校

地域との交流
運動会やへ

運動会やたんご会
メープル小学校



毎年6月、朝日保育所や地域の方々の参加を得て運動会を実施しています。児童種目の間に地域・PTAや保育所の種目を織り交ぜ、みんなで一緒に盛り上げる一大イベントとなっています。

また、3学期の始

業式の日には、PTAが主催する「べつたんご会」(餅つき会)が行われます。新年を迎えた子ども達に、保護者から激励の場として一緒に餅つきを実施します。

など、地域の方々との交流の場にもなっています。

さらに昨年は、児童の登下校を見守って頂いた老人クラブの皆様へ感謝の気持ちをとめて、児童が収穫したお米をお礼として代表者に贈呈する場も設定しました。



地域との絆

清園中學校



追いつくにつれて増えてきており、学校が地域によって支えられ、見守られていることを実感できます。

一方、みんなで子どもを守る意識が高く、登下校の児童生徒の交通安全や不審者に対する見守り体制について、大変協力的です。町内会の会議には小・中学校からも参加して、実情を説明することもありました。

く町内会があり、今後、育成連絡協議会など既存の組織とPTAを通して、小学校と連絡を密にし、より学校が地域の輪の中心となるよう地道な絆づくりを進めています。



＊ ＊
ハッピーキャツ千集会

明成中学校



本校では「いじめ撲滅」をお題目に終わらせることのないよう、地域の皆さんやPTA、明成サポーターズ等との日常的な連携に取り組んでいます。お陰でいじめや問題行動を未然に防止したり、初期の段階で解決したりと効果をあげているところ

るで。

そして同時に、学校での様々な問題と正面から向き合う意識を育てるため、生徒自らが現状を分析し、改善や解決の方向を話し合う機会を大切にしています。

『キャッチ集会』は、そのような願いから誕生した活動です。特に、昨年度からは、いじめ問題に視点を当てて取り組んできました。

『いじめはしない。させない。許さない。伝える勇氣。認め合う気持ち』全校生徒で採択したスローガンが結実するよう、学校と家庭、地域とのつながりを一層強固なものにしていきたいと思います。



みんなで 教育を 考える日

昨年10月20日(土)、24回目を迎える「みんなで教育を考える日」(同実行委員会主催)が市内のまなみーるで開催されました。会場には、230名余りの参加者が集まり、岩見沢の教育を考える一日となりました。

少年の主張

「少年の主張岩見沢大会」での表彰者3名の発表が行われました。

◇鈴木里依さん(上幌向中3年)
「見方を変えれば」

◇熊谷早紀さん(北村中3年)

「伝えることの大切さ」

◇佐藤時希さん(東光中3年)

「医療の進歩とその功罪」



少年の主張岩見沢大会表彰者の発表

教育講演会

「子どもたちの脳を救え!」早寝早起朝ごはんの大切さ」と題して、「子どもの早起きをすすめる会」の発起人でもある埼玉医科大学総合医療センター小児科医師の星野恭子先生にご講演をいただきました。

お話の中で、親が寝ているにもかかわらず、毎日午前2時頃までひどい起きて遊んでいた3歳の男の子を、朝、無理にでも起こして朝日を浴びさせ、日中は外で遊ばせて、夜は父親の協力を得ながら8時過ぎには消灯して、早寝早起きの習慣づけができたという事例が映像で紹介されました。

人間の生体時計は一日が25時間のところ、太陽の光を浴びることで24時間に調整されていることから、遅寝や夜型の生活は慢性的の時差ボケ状態になっ

てしまうこと、さらには、生活習慣の乱れがホルモンの分泌や体温調節、食生活にも影響することから、「早寝早起朝ごはん」の習慣が重要という内容でした。



教育講演会

ミニ座談会

「子どもにとって良い教育環境づくり」をテーマに、子どもの生活習慣の改善について、5グループに分かれてワークショップ形式で話し合いが行われました。

グループ発表では、メディアの進展により遊びや生活環境が変化し、早寝早起きができず、朝ごはんが食べられなくなっていることに加え、家庭でのルールがない、親のしつけのあり方も課題とされました。

子どもの生活リズムに悪影響を及ぼしている要因として、親(大人)の関わり方に問題があるとの意見が多く、子どもが大人と一緒にリズムで過ごしているという危機的な生活リズムの改善には、大人の生活リズムの改善や子育て教育の意識改革が必要で、子育ての情報を共有できる仲間づくりを広げることも肝要と提起されました。

最後に講評いただいた星野先生も深く共感され、各グループの意見をまとめたシートを文部科学省の担当者に見せるとおっしゃって持ち帰られました。

※「早起きをすすめる会」のDVDや書籍、教育講演会の収録DVDの貸出しを希望される方はご連絡下さい。



ミニ座談会

〈問合せ先〉

生涯学習振興課(北村支所内)

☎56局2001

スキーは楽しい！ シーハイル！！ 岩見沢スキー連盟

岩見沢スキー連盟は、昭和29年10月1日に設立され、今年で53年目になります。

豪雪地帯である岩見沢にとって、冬の雪を楽しむことのできるスキーは、切っても切れない関係で、大自然の中で行われるスキーの醍醐味は、スキーの本質的な楽しさ、スキー特有の面白さを味わうところにあります。

そしてスキーは、自分のライフスタイルに合わせて行うことができる生涯スポーツでもあります。

連盟では、スキーの普及・振興のために、様々なスキー教室の開催や競技選手の育成などを行なっています。



長い歴史のある「小中学生初級スキー教室」は、正月3・4日に毎年開催され、昨年の受講者が55名、スキーに慣れない子ども達を中心に、スキーの楽しさや正しいスキー操作、技術を伝えることができました。

他にもナイター教室、スキー学校、スキー講習・検定会、ジュニアスキー教室、スノーボード教室、クロスカントリースキー、歩くスキーの会や市民スキー大会をはじめとした大会などの事業を主催しています。

皆さんも、「秋の山市民スキー場」、「北海道グリーンランドホワイトパーク」に出かけて、スキーの楽しさに触れてみませんか。全日本スキー連盟公認指導員が、皆様の楽しいスキーライフのお手伝いをいたしますので、お気軽にスキー教室にご参加ください。

“真っ向勝負” の精神で 岩見沢柔道連盟

岩見沢柔道連盟は、日本古来の武道である柔道の心と技を伝承し、子ども達の健全育成に努め、後継者を育成することを目的に活動しています。

奥山昌弘会長をはじめ、連盟の多くの方々の熱心な指導のもと、

現在、「伝統文化こども教室」（文化庁委嘱事業）の認定を受け、週3回（火・木・金）、午後6時30分から8時まで、美園児童館にて「岩見沢こども柔道教室」を運営しています。

「明るく・楽しく」をモットーに、子ども達は元気いっぱい頑張っており、最近は全道優勝、さらには全国でも入賞するほどの活躍をみせる子ども達が増えてきました。



目下、柔道教室では、初心者レベルアップに力を注いでいますが、筋のいい子ども達が多く、その上達ぶりには目を見張るものがあります。

柔道の魅力は、練習後のすがすがしさや試合で勝った時の喜びであり、柔道を通じて技術はもちろん精神面でも学ばることが色々あります。

日々の練習では、寝技にはじまり、立ち技、試合練習、筋力トレーニングなど、様々な練習を繰り返し行い身に付けますが、何より目の前の練習に必死になっているうちに、「勝とう」というより「自分から攻めていこう」という集中力や精神力が養われます。

小細工をして勝っても納得できません。柔道を通して、「真っ向勝負」の大切さを学び、何事にも真っ向から取り組んでいく大人に成長してもらいたいと願っています。



指導室から

子どもは、小学校5・6年生から中学生くらいになると、親の言うことを聞かない時期が訪れます。それまでは、「自分の感情より親の感情を優先」していたのに、「親の感情にもとづく価値観の押し付けに対して反抗」するようになり、親子のコミュニケーションも難しくなってきましたね。

親は、我が子の将来を考え、自分のこれまでの経験や知識、まわりの様々な情報から「こうした方がいい」と提案、命令、時には説教もしますよね。これは、親の当然の責任です。一方、子どもだって「いい成績を取りたい」「よくできたねと褒めてもらいたい」といつも考えています。「子どもを伸ばしたい」と願わない親も、「実力を伸ばしたい」と思わない子どももいません。ところが、親の努力が子どもに伝わらない、子どもの成長を邪魔しているということがあつたらば、親子共にストレスがたまることになります。ある中学校で3年生に「親から言われて嫌な言葉」をあげてもらったら、次のようにまとまりました。①**まったく**あなたはダメね。②**いつも**あなたはこうなんだから。③**どうせ**、あなたが努力したってたいしたことないでしょ。

う。④やる気になつてうれしいわ。でも続くかしら…。⑤おまえにはできっこない。⑥こんな成績じゃ、おまえの将来真つ暗だね。⑦3時間勉強するのが当たり前だぞ。⑧さつさとしなさい。のろまなんだから。⑨**あなたのせいで**私はこんなに白髪が増えたわ。否定や責任転嫁などのマイナスメッセージでは、誰だつてやる気にならないし、伸びる力は育ちません。感情は伝染するもので、親が不快なら子どもも不快です。欠点探しは、誰でもできますが、決して次にはつながらません。我が子のいいところはどこですか？声に出して子どもにも伝えましょう。いいところ探しは、楽しいものですよ。

ちょっと
ミニ情報

歯の健康づくり教室



昨年11月、岩見沢市歯科医師会の協力を得て、市内3つの小学校で「歯の健康づくり教室」が開催されました。各学校では1・2年生を対象に、市内の歯科医師と歯科衛生士の方がむし歯の原因やむし歯予防について、分かり易く説明していただきました。来年度は、さらに対象学校を広げて実施する予定です。

丈夫な歯は、健康なからだの原点です。子どものうちからの定期的な歯科検診とセルフケアが大切です。



歯の健康づくり教室（第一小学校にて）

家庭でできる 簡単給食レシピ♪ 「マーボー豆腐」



材料（4人分）

・豆腐	1丁	・豚ひき肉	140g
・生姜	少々	・にんにく	少々
・竹の子	40g	・人参	40g
・干し椎茸	3g	・ごま油	少々
(合せ調味料)			
・酒	小さじ2	・三温糖	大さじ1
・醤油	大さじ2	・白みそ	小さじ1
・トウバンジャン	少々	・テンメンジャン	小さじ1
・でんぶん	適量		

作り方

- ① 豆腐は1cmの角に切る。
- ② 生姜、にんにくはすりおろす。
- ③ 竹の子、人参は千切りにする。干し椎茸は戻して千切りにする。
- ④ ごま油を熱し、生姜、にんにくを入れて、豚ひき肉を炒める。
- ⑤ ④が炒まったら、人参、竹の子、椎茸を炒める。
- ⑥ ⑤に合せ調味料を入れて更に炒める。
- ⑦ ⑥にでんぶんでとろみをつける。
- ⑧ ⑦に豆腐を入れて、崩れないように炒めてできあがり。

ポイント!



子ども達は、ごはんにかけて「マーボー豆腐丼」にして食べたりと、大好評の献立です。マーボー豆腐は、面倒な料理と思っている方も多いかと…実はテンメンジャンさえ用意すれば、身近な調味料で簡単にオリジナルのマーボー豆腐をつくることができますよ。ぜひお試しください。

=ご意見・ご要望をおよせください=

<担当>

岩見沢市教育委員会企画総務課情報企画係

〒068-8686

岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111（内線416）

FAX 0126-25-2995

メール ejyouhou@i-hamanasu.jp